送電

を率いて先づ発門を突破した、間と、際田脳際長は苦戯中の状況を

で行かうとする山崎部隊長に「山崎さん、師地はあすとの茶

長はわが砲頭が瞬急したのか、

とこというたず茶畑を荒すに窓び、歌味長の下へかけつけと歌唱つた、山崎際長は「よしき」したのであらう、はら

心で、込る石量を走って、緊急して気力がならぬので先別の砲手達の

一方とちらは早く繊維の方へ行か

だ、谷家少将の西から御存知だった。谷家少将の西から御り出すの中うた太い二本脚、きれざれないのかがはのやうに飾り出すの世が、まれざれない。

藤田進中将語る

大領(十三)各層技術要員の

措置(略)

魂も戦ひをする ぞ

意味なき 匹俗の娛樂と 耽るこ

よとについても、世の指導者、

築地市総といる兵(現在戦馬勲伊

【東京電話】われらが軍陣と仰ぐ

権事が起つた時彼は部下を死なせ

熱南城の東門は外門と内門のこう

荒すに忍びぬ茶畑

玉碎の日

へ不斷の修錬

が射撃を開始したその瞬間であ

って來たかと思ふとはつと折り 限切って、さーつと石脈の上を走

山崎は生きて

ねる

不毀プロペラ採用を積極的に官節

(ナコ) アルミニウムその

亞東が本日下戰決

ため木製機お

仕上げてゐると落へる次第で

長を先輩としてもだれたこも山崎

たらうし、後天的修養

と異句同覧に答へるのであつた。

上をはかるため技術者ならびに物

方第(十一)生産技術の水準的

隊長殿の大場一野で勇氣百倍し この勝隊接殿の下で死んだら

崎陽長は『鄭地麗換』と叫んで今

南城の東門は外門と内門の一つ「その暗獣田脳隊長も一概であつ」を自分はよく知つてあるので急いらなつてあるが自分は一ケル隊、つてとられ山崎隊長も一概であつ」を自分はよく知つてあるので急い

|方へ概態すべく集結中であつた、| ならしむべい

との報に兵力部場を駆更してその一 もなく城外北側の数道職保に行う

20 を制度、部隊の攻撃制進を突動。 に即をもつて先づ射ち歴門の敵 上 に即をもつて先づ射ち歴門の敵 上

て、本來の酸梁、髌背に邁進す

從來、殊以二階間の初至國校

でざる出場種目に対し、

経覚のみの整練會、整賞

ふ厚生娯楽のなかつをことを呼

來の質価制的なる運動會を盛し

のであるは智を失たぬが、また

慰安的、興味的對象となる別が

像に対する消極的なる一面であ

もとより前掲の踏點は、運動

う。要するに従來のいはゆ

育への所反省にはよき契機を配

へたものであり、同時に父兄郎

合せは、なほ名くの研究問題と

を意味して日まない。けだし連

全く立派な最期だつた、他が山崎 山崎も立派な男になつてくれた、

力を應用!: 大阪門 との歌音を

今回の二部側初等駆校長の申

お祭職者的興奮を伴ひ、一種の

げることが出來たのである。

時間づつ電腦的に

多彩を漫然と集合せしめること れは窓域を想定して、一ケ所に

際の態線、態質を意圖するもの

側の初等風板長相談會の席上、

最近、京城府内における二部 一秋季週勤留を控へて、従

食物の問題、資材の問題、時間

そして風機似としては石灰、緑、 べき懸念が多かつたのである。

> としては、その消極面もまた、 せる現時局下、一切のものが決

> > なつたといひ得る。 対し、當然反省さるべき時期と

既元の他の點から浴気すること

国室側としても関す、理動

も感覚一人質り館かに数分を出

局に即腹するやうに関係すべき れることを許されず、現實の時

見せるための運動會に留らしめ

役となることを見逃すことが出

ることについては大饗成である るのであって、意味の随答を吸 べき一般目を附加したことくな 知識人の雌になて、新に研究す

と先数の陣地の緊第二種目の弾丸

専念する際田進中將を訪び営時の

日本人といふ人格だった、山

すぐに判ってくれたか際的 宮城を含はせたものは神の意志 いふ人間ではなかった。俺にこの

職本部電路局長として銃後指導に

場する大喝の主、大政家質の興品 長の一隅に疎頭指揮を大悟したと

と大喝した一個は、質は一個の館と

國民全部が山路の名を始えてくれ

ツ島の敗華に現一

部長)事務打合せのためg

然る本來應않、職育を目指す 79

がら、既はそれによって理され

価質なる娯楽であるかに見えな

して比すれば、これはまた一面

說社

運動會廢止への考察

(版 內 市)

【疑Oの選問報報』】隊機上水ふ向に撃爆〇〇洋平太南

であつた【常茂=谷萩少粉】

関係長が駆手の破職をレフンはらく〜と落成した時の光景は今でもありくと目の前に浮ぶやうに

は五月八日灣南城東門攻撃を搬當せしめられた、話はこくからはじまる、

際隊長の『大喝

部下へ向って「豫備徳事帥」つい 同時に目からばらくと落漠、

中将の第六師師に増援のため〇〇畦田中の勝田殿際は急遽派南に向ひ、谷栽中隊長の脚する第一

聯隊長大喝に大悟

的な事件から特に他下の指揮影響に大色、構築この数で不敬の修練を、積むに至ったといる影話が意味山筋部隊長と同じ、際際と同僚に、「東京管理」山筋部隊長についての形象の物語しが感象器と貼り像くられてある時、これは同部隊長が十五年前、獲商事件の権力を

崎の歩兵十五腕隊の機関館中隊長、谷靫少将は第一中隊長で駅隊長は後の上海方面軍最高指揮

隊長として 展務した大本感隆軍報道部長容較少將の口からあかるみに出された、 管時山崎部隊長は高

政気性回興亜網本部質協局長駿田中将であった、

して加へられた酸空襲網瑙につい 【東京電話】一日宏明南島陽に對

軍事科學陣の誇る電波数5である

折せしめ洋上の孤島にあって 戦奮闘は敵の反攻を挫める。また現地部隊の勇

來襲機二を擊墜

は又も既東および香港方面に來越、F40些一機を略感、更に遺伝する。近九機より成る敵爆運合の数艦隊「香港東北方大闘戦上部において

炎上せしめた、際の 大破せしめ、また必 大破せしめ、また必

敵の防空間火は熾烈を極めたが、わが方金機無事陥避した

(宜昌西北約六十キロ)

も六百トン級船艦一隻に命中彈を與

濟南事件の

軍神山崎,中隊長

谷萩報道 部長語る

軽信性であり楽したため弾

どの死態収容所へ使はし今の命中というて官らに部下を砲手な

「御前が散つてゐることは確が「アツツ島玉座の心臓へが十数年前を報告させ後から自分も行つて、木八ま、十八月二次〇一

想起せん感激の日

ないか、恐らく山崎部隊長がアツ

ひ出されたものが

ではない、あの當時兵隊に聞いて

七分理在支米空軍B4型十艘P4 れを激闘、振烈なる空中蔵を展開 【歴東二日同盟」二日午後一時十一わが精敏なる航空部隊は直ちに入

廣東、香港に邀撃粉碎

包東、

三斗坪中間)

型九機より成る散爆連合の敵線隊

來與せる敵は航空母艦二隻を

機に多少損害ありしも人員及び施設の損害は極めて輕微なり

この間敵に與へたる損害撃墜十二機、

我方地上にありたる飛行

敵來襲、未然に察知

圖を事前に探知し、 a 性を發揮し敵來襲の企

探信器はよくその優秀

が損害を最少限度に廃止めたので

優秀、わず電波探信器

れば來襲せる敵機は航空母艦を基幹とする機動部隊にして 戦爆延約百六十大本營發表 (元月1日+18) 南鳥島に對する昨一日の 敵襲に關し其の後判明

施設を攻撃せるもの

-機を邀撃

泰軍事視察團

鑑励を設ける在支米空気は 日間盟しわが完置部

ちに猛戦を加へたが、上空は凱上空に於てP4十三級を發見喧上空に於てP4十三級を發見喧

務主任それと、一名計八名を潮洲 なして來たが潮洲國政府では右各 國に招致するとになり一行は近く

京城、

40型一般を壁座しわが全般00基 政機能を思州上空に近し、更にP

際関係の理化促進と非常な貢献を

一膝の下に敵機ははつと火力が、とれに側面攻略を加へ

ひて落らて行った、とれ外B25会暫時背面飛行のよら白線を曳

既ののち九月十八日まで各地を説

変数工廠におけるとの生態は第の発圧、生態で弱の物脈的均衡ならびと試験均衡は至大の似勢とされて東京電影・非常環境を概める所が決戦に対象し肺が機の均離は現下成力均極上機能の変勢にして筋

方策並に措置

家を作成、六月世日の部會で決定八月九日原係施設の決裁を得て答申を了し二日技術院より左の如く こゐるが、科學技術教諭會においては去る一月世日の総會に提案された『鍬、石炭、アルミニニー

えが第一次答申

展 (11) 工場施製の主要原料をより対 を対する以と 原 (11) 工場施製所に続っては原 が認さない 大調とお行する如ぐ黄疸のよと 一を現化し (11) 航客機の主要原料をより対 大部さより 大調さなが 大部となり 大調さなが 大部となり 大調さなり 大調さなが 大部となり 大調さなが 大部となり 大調さなが かきます。

増航産空機

隘路徹底打問

を設まれるを設合はない を指する如く指位するで が続する如く指位するで 方様(五)工作複様ので を図る

科學技術審議會第一次答申終る

方義(1) 航空機の主要原端および标郷の急速増減をはかる 措置(1) 航空ならびに同加工 工場に関しその設備、機械、要 員、電力、機力、機利などを選り

一を運化し速かに電施の運びに至

方案(こ)航空機の主要原料、

質施するための生産環位(一工場)

に大猫・大

する諸研究を强力に推進し、これ

院職的に検討し各部門毎に法則的敦訓を探求し ・ 方戦に最も有効なる活躍をする感には戦争をより ・ 力戦に最も有効なる活躍をする感には戦争をより ・ 力戦に最も有効なる活躍をする感には戦争をより ・ 力戦に最も有効なる活躍をする感には戦争をより ・ 方式みられなかつた研究を發表した書。

威し從來未

各工場に耐し生産時

改造 表替東京八四〇二東京都芝區新橋

方第(八)大道生産を目的

戰爭類型史

四周六十五鐵 四周六十五鐵

•

方策(III)参加生産を能率的と

察地産のため工場立地の見地より

陸鷲建甌、巴東附近急襲

滑走路を潰滅

寒、敵の地上砲火を尻目

省西揚子江の要衡巴東、三斗坪間の敵船舶を攻撃、巴東 および歸州また同日別働隊は急降下爆撃機の大編隊を もつて数次にわたり湖北

において一千十ン級船舶一隻を繋沈、さらに、三斗坪間の敵船舶を攻撃、巴東および歸州

方葉(七)機能變動機での他配

生蔵力の跛行的現状を是正

方第(九)最少の設備を以て

山口高商教授

末松

玄 六著

新刊弘報 45三六八頁

最適工

一業經營企

33

發 九月 下旬

科學する乙女たちのは、明書のは、八〇 落合 直文

生物學概論

の時には將梗違は感激に感激の日ったのであるが、特に膝田黥除長 を送ったものである、將校ばかり をなさしめたものであらう、高崎

御註文は最寄の書店へ一東京小石川水道橋際

同

文

館

皇國生成史論 質1.100

方角(十)工作機械等はその必

文 學 博士 清 福 松 水 者

優 衛二十八圓 定 出 版

肾和辞典

全十三卷一萬五

新祖弘明第八級李照 九月十日第二卷整行 東京郡神田區鄉町三丁昌二子四番地 九月十日第二卷整行 東京郡神田區鄉町三丁昌二子四番地 を始め日、福華各界の諸名士より意職と監聯とを仰ぐ、で東学文化の資奥、本辭典に動し関郡文部大臣閣下、き漢字文化の資奥、本辭典に動し関郡文部大臣閣下郷難して・学・向無に罹細たる出典・用例を明示し平衡を上一学、「衛生に罹細たる出典・用例を明示し不動五十二萬、領文艦府より十萬階多い。古今の文獻を親字數四萬九千字、陸熙字典に比して二千字多く、語彙

大日本海軍報道部員濱田少佐解説
「大日本海軍報道部員濱田少佐解説」
「大日本海軍報道部員濱田少佐解説」

刊新最の下戦決

参考資料 進呈

最新刊。定價、六、圓

振替東京四〇五〇四番

朝鮮軍囑託松下芳男著

|程度等|| すことを|| 意味した協議部。見られてある。「協會社設立と同時|| する模様であるこれはかくる場合個人の出途を或 重の俗語者及びを波響者の二名と|| は前記斯設會社会のお問題を持たせてあるが、 に鑑み會社を構成するのは現物出 然臨が過剰或な

意の管護者及びを改築者の二名と、は前局新設自社で必要程度を認承に鑑み自註を構成するのは規物出、禁助が過剰宣标を買收、また一部

日華製の産業經常提供を現化する

北本部館に蒙嬌本部と共同主催の に、廿七日から三日間北京中南

> 身間の特別頑丈な大工、左官、土 主なる目的にしてゐたため、今で や、友軍の秘霊物を概要するのを

総献を囲ふやうになった、工長の | ろな過歩した機能が影响してゐるし得ない複響、かっ多種態の精密 | 炉、いまでは地中脳器器やいろい

た部隊のやうに思ばれ勝ちであつ

んなに猛烈に攻略しても敵の戦地。だけが任務でなく、戦闘する主任一戦のきつかけをつけ、上海のグリ

で発見たのも工兵の活躍に依るも くも昭南郎、マライ間に成女明車 いるの昭和十七年二月十八日には早 1000

のでありその他級場巡路の爲に有一搬送して、

部隊といる呼呼はなくなったが、

殿してゐる、シンガポー に交通技術方面でも重要な任務を

激約などを歩兵が撤留し

多くなつたが、これから

剛浴を弧 各兵科を

△黄麻莖・コルケ瓶栓入荷家内▷

兵器の補給に萬全

五大目標貫徹に突進

る函数を挑除してこれが達成と

者自身の既存資材保育を を雕へた比組でありかつ設立目的。 がこれは近く設立の朝鮮意識物質

强力な統制會社近く設立

飛踊的な生産技術の間上によって 石にも政別な検討を加へつつあり、田説・更に全面的報復作業への移

軍

科學兵科の粹 工兵の近代戦

敵の侵入を防ぐ一方、貯蔵追

カレたことなどであつて、密時飲後

大東亞戦争になってからの工匠

再檢討の好機 投資の健全化

券舱原大

医掌軟 白川 魔

京城元町一丁目一〇八 (元•平岡医院 跡) 最結會山④ 1 5 1

奥、化恩、自動車、探照版、 ・ 飛りることなった、 ・ 而して既に光 造の徹底的防止、不用工程の省略 られてをり特に工具、治具、放査 具態的方策の立案に沿手したが、 明鮮からも緩緩、臨緩開係の官民(委員會では六日院計會を開いて提)とになった代表指を出席させるため同會明鮮)出版祭と代表出席者を決定するこ

(下) 微流に挑む我が潜水夫】--宗久海軍報道班員撮影、海軍省 水路宮發に測流と聞ってゐる【宮留=(上)〇〇河埠頭建設工 海軍〇〇特別工作隊の建設譜無数源類の線々|※源するため一百附桁令により朝

は聚歴生活と戦會生活があって、 その関方を通じて國家に都郷公を して行かうといふ郊へ方だね 堂本、 仕幕隊の到用上注意す といふやうなこと、それから

追義朝鮮と仕奉隊 ebe

(F)

といふ 悲慨的な見方をする 人も

組織より運用が肝要 室本 今までのことを沿革的

9、職域に於ける墜園班の設置は 全難二千五百ぬを 地域と 職域の

は何某がどこにゐるといふことも

眼は勤勞觀念の錬成

的に立つてをるといふれへは向か

心官民一體で邁進

にやつて非常にうまく行いてある

ふうして自分の所ではかういふ風

現下の思條件下にあつては登

を最高度に活用して國家目的

といふか、さういる氣持で特にや

をすることに似って管面の生産的











橋本大佐今内地の暗報で

橋本 変としての考へとして

爱风症 {皮膚科·化吸缩

やる場形もやるといふやうな、古

山畷盟では或程度やつてをるが、

皮と、悪い品物を図るのとで非常に地のあるバン屋が、不製切な政

・客は自分の質 とになった 生が使う見てヤサンコンロの信値を知り 會 アサヒコンロ地は漢土工業 社

立謹

自家用繭に承認制 蠶糸統制規則を改正

> れが観整に郭出すべく勝葉節會に が給不圆層に鑑み、京城総職はこ 京城市内における最近の深刻なか

永の需給調整

同部會では更に所做的を加へたう

全部を新自社に引続ぐものである

[]형[[출]

自家用脳の傾流れによる間取引が「意欲の耐保を切する上に、見逃す」等である。な体盤絲説制度此の脳 化し、もつて非合法的取引を蹴平に踏み、融管形は硫細を一度と強 及び資紹買入団格は従來通りの買

四、資材の配給献と品質の低下 ついき解説調査を開き左の確認を で、 生態用原料の入手罐 することとなり三日午前十時から 二、生態はよる冷却用水の木足 変質事質能に役員賣を開催、用 三、生産用原料の入手罐 することとなり三日午前十時から 変質事態の能に役員賣を開催、用 ついき解説が関係している。

果樹苗木の

時は世めて深風を登

門ち願客

神經科

やうにす 再び足を 朝鮮石炭質社の設立に伴ひ既報の

東亞電力懇談會で强調

関の学はを拠込んで供出命令を「大民職財公園内における館の資識」十月早人集気において定が慰客を「合河である出し、供出させてあせた。今後、の有機的開發とを「適相ないの」開閉すること決定、目下各地の最上に はないことが、の所は、今後、の不能の開発をよって昨年、就長、玉曜湖郡氏)四頭合同電源(大塚田代を追加議総制自由に加入「台閣などの名代表書でよって昨年、就長、玉曜湖郡氏)四頭合同電源(大塚田代を追加議総制自由に加入「台閣などの名代表書でよって昨年、就長、玉曜湖郡氏)四頭合同電源(大塚田代を追加議総制自由に加入「台閣などの名代表書でよって昨年、就長、玉曜湖郡氏)四頭合「大塚田田市」といる代表書である。 一般でも成野の内側に関いてにが別館自己に加入「台閣などの名代表書でよりの別様に表が出版す」と記えている。

黄海線の輸送力 間にはあばぬ、ようて質問は 材関がは図より多大の努力と 日月を要するので到底無場の 場の派展、側級の改良、機関

(渝洲)旭珪藻土工業株式會社製品一手販賣旭珪藻土工業株式會社製品一手販賣旭 華藻土工業株式會社製品一手販賣

旭工業 商會 周 營 七業

アサヒケーソード接賣アサヒコンロー手販賣の地産一流品を凌駕 温 電 銀品 を 凌駕 る 20

资 部

內產

職業紹 介

壤

中では、 中では

月かり、日本のでは、日本

野入服會ラ乞フ。 金菜合三陽係ナキ袋、轉業者三人の東京野適ノ酸菜ナリ、三十銭

乞御試用

朝鮮一手販賣 京城廣江新信和產業社與營口與11885番 二丁目三一五信和產業社與營口與11885番



愛國班員よ決戦の構つはよ

5

1

(下開電話) 満洲建國功勢着漁児

者の遺兒渡滿 滿洲建國功勞

一白樺の脳皮から乾澗法で油を抽出

鮮地方の高地帯に無限に成腎する

)の白樺油は白茂西原をはじめ北 | から一石九升の油を抽出してある | めれば立脈な器器油になる見透し

神烈戦協な削縮の附兵に聴へ銃後にいまで傾ゆるものを取力化し労命への道をひたぶるに撤進するこであり、総配の代りに木造船を、東油の代用に最高油をと各部門に近る職意下実体認力 て加速終対数で試験され、更に総管所中央試験所と過され研究を選めてある快ニュースがあるの瑜珈に力頭い前週をみせてあるとき松阪油を従く自華地(開釈)が公園ではじめての試みとし

林の変と、大きなのであり、成準等林島では森林の代用として使用

日電旗を先頭に四長中沖霧氏に引

のも朝鮮經由、一路潮洲建國の第一の結果は使用國皮九十三貫五百匁一あるが取門家の手により研究を御

四月から着手し十六回に取る試験。ナメン用油や保証油もとれるのでせんと耐労をはじめたもので去る。神を頭に二百十度位で分離すれば

油を更に二百十度位で分離すれば

燃林戦長は自信納々と次のやうに 白樺油の考案に發手した遊部成準

森林殿道に潤滑油代用として同

関木の成背空間はなくまた資本 の必要も伏・天然理解に停て はよいので林政上向ら新支へは ないのである。一冊二石も三石 もたるのである。一冊二石も三石 もたるのである。時二歳の手で 研究してあるから近く素明らし い間が出て最近するものと規模

十匁と五十三%の好率をみせてゐ これを 国目にみると 四十九四七

試験の結果も好成績

考案の城津営林署長語る

敵機は身近かだ

以來ここに八十五日ひたすら

佐として航空機能 の御恩職にあらせ **空本部教育部部** ってしかも陸軍少 枝玉葉の御身をも 示されさらに御演練にお飲の 何れも恐懼感激してゐる、而 御天性と大空への御心を往が も殿下には御入殿以來お休み 無し加藤校長以下敬酬員一同 その卓抜せる師領境のほどを 行と御照心に御修得遊ばされ 戦などの高度飛行から断険飛り せ給ふ御熱心さによって難、 も遊ばされず御精選の配鉄を 孫、上昇反剛、然反即、然反

日館けも一人まさせられたと どは齊しく成骸異起、一死率 頭に御精進遊ばされてゐるが いそしむ光楽の少年飛行兵ないそしむ光楽の少年飛行兵な 御悪敵に加陸校長以下同校政 中指揮法など最後の風情御堂 全部を御修得目下話院取技室 この聲き御身をもつての卒先 **膝校長以下一同御熊闘申上げ** る九日と御決定、殿下には加

ずお休みになられたのです

承る、姿の御修練今や成り殿 がを繋び申上げてゐる 加藤校長謹話

尊き御身で大空へ

御垂範

來る九日陸軍飛行學校御卒業

飛行院を御駅間、御俗秀なる

ふととは今日までに僅か二日 ただ恐懼の外ありなせん

ター・オート ではなど、世界が出生で、中国の名は、アート では、アート では、アー 故曹船長6 の公雑の公雑

創九時からは見然哲寺で寺山風相 一回公経的と感動法では、二日午

四大門署へ寄託

版ふ京城府では定例部隊長會議

國竹終而一/四四吳東豫 三四県底町一〇四葵島頭信◆五 三四県底町一〇四葵島頭信◆五十 府廳部課長會議

金融するポスターを募集したとこ 後級の下に聞く全戦男が中国別校 一般業者の場合

東する氣持で微細な品で ▲加工製造者は物資を輸 ませう

學影 類分を和げるやう親 添人は苛立つ思書の ▲病院の短睫婦や附

耳鼻咽喉科

医学博士

パピリオクレ

お肌の為に

ものはありません

働く姿より美しい

「成場を指する中で子が開発して登ります。 「のはまた」という。 「のはまたり、 「のなまたり、 「のなまたり

京城家 畜 株式會家 城家 畜 株式會

代燃にこれは素的

白樺の皮から潤滑油

≪交通機関の従業者は常 犯治水昌田(元)は去る六月下旬の一の東大門家宿市場を舞台に助後五の東大門家宿市場出入客の財布を探接つたが想巡院をて、一日東大門 掬摸ご用 金生乳製

本社寄託献金

として獲賞と登場せんとしてゐる て順耳研究、近く問治迪の代用油のもとに目下中央試験場に委託し

【名詞=城津営林昭襄の白檀油試

이 #1日 3

常期以上の多数出品が集つた

は予覧と

原禁作品の配選を行つたが、

즓

献金

部内金洲阿米爾里内金剛公立國【慶軍】 4.10八十國江原這淮 金

一學院 生徒募集

· 旅府西大門 第升德町三九二个學案內嬰®穿四頭

陽鄉業株式會社

る 経 製造物の ま

代理店 にも非常し得か申込所の解案の観検が非人婦人に

まります。 東集の関係を対すの何なる場所では、 東京の大学の一般である。 東京の一般である。 東京の一を、 東京

辻組營業

| 累計 (國防服金) 九十三 | 個兵金 二十五萬八千百 | 八十一 圓一銭

三百四十二圓十二錢

大円九六

徵兵制施行事業資金

低弱型門 風夜では朝鮮殿殿、本社一階間場で同ポスター展覧會を開催

本格的な海洋筏

宮崎から十二日ごろ着筏

ター入賞者 徴兵制ポス

城蠶絲合名會社

わきが領法

進無

累計 七千八百七十八

答照発氏は一日夜踊城、水の如く

以他に動物から現行したものは

は、近後の家庭である、現在、朝 したので順間にゆけば十二日に したので順間にゆけば十二日に

にならぬ程大きく見可なものだ

海洋吸の織筏状況観察のため九州

〜出張中だつた朝木社原務理事木

| 木本製薬所 高間。 健

界京進軍堂 一式と木銃 大阪・熊本・函館 は **書 計 港 の 園 樹 果** た E 苗 樹 果 の 服 卓 版 場 本 た E 苗 実 確 の 園 有 富 を 併

本家朔一文字謹製軍刀

は正に此例の通ふ地なのだ、微焦成の級反攻は今やゲリラ限的相続 はせて忽ち敵機十二を壁座、魔存敵機は貧量として通走した、南鳥 臨他射限をさへ加へて來をが勇猛波艇のわが兵は地上耐火にものい の関に大腕にも一日南島間に來聞した、二日十七時の大本低證表に に飛んで闘って來た〇〇巻隊は今職はれつつある決威をいみじく れば航空母艦を基職とする敵機動部隊は厩蝦延べて約百六十機と 一勝、第々本格的決職を洗んで來たのだ『東京空観』「わが本土 いるないかー決戦、決職と口にしながら正しく決職生活を過しつ訓練をモンベ、参脚群、給水運動など入形式的に切みこんである 一洋正面級反攻を呼號する鬼管アメリカはソロモンの島頭作配か ると自負し得る緊囲班員が果して微人あるだらうか、附方第二一倍」の概範を理へ整うて勇威性闘 機の敵機大學來機を他人事と聞き捨てにしてゐる者はいないか 例によって尨大な敷を恃んでの來願である。そのうへ小願にも 一瞬にさし消つを脳膜なる現實であるこを忘れてはいけない で願てた海上の一孤宮とはいへ本土と 勝ち扱いて米鬼を押し潰す唯一の道なのだ。それは同時に決聴敗階を命の決意をもつて今日の生活を勝ち扱け、それは同時に決聴敗階を 甘い老へも許されないのだ、敵機は必ず來る一その敬機を一機廃ら れわれど、決死防空戦が関を施くと共に生産成力増弱へ、失政生活われた。決死防空戦が関を施くと共に生産を対し、無限兵に蹴ったわ 職立へ、もつと貢献にならう、死身にならう、一切の路路も一切の 等日本民族が悠久二千六百年のその上から受け、感倒する生産力で 合同慰靈祭 部隊の

の英雄を慰めるため北部軍司令部

式により性敵かつ盛大に合同は感 王催のもとに來る二十九日午後1

れこそ歌の生态顕著・郷と血の闘争とといつた、・血・こそはわれ「労働部級山崎保代中将以下二年」は、神兵部験を祭るに相関しい感謝がもついた。方のだ、親なのだ、若上原ふ得べきものありとすればそ。貧玉歌歌劇の神と化したアツツは、嫉の参观を得る戦争を謳めてをり級に飛んで闘って來た〇〇巻歌は今歳なれつつある決戦をいみじく「十八日送に万折れ、飛起後きて全」赤戦を展すため、全國各組の診察を得んで闘って來た〇〇巻歌は今歳はれつつある決戦をいみじく「十八日送に万折れ、飛起後きて全」赤戦を展すため、全國各組の診察 【札幌館館」北京の孤島に「十 七の遺動を贈へ過族に引動感謝の 祭を執行する、司令部では玉路頭 時から札幌市中島公園ごおいて神

るのは雲梁む毘と火の玉となって冰間を繰り

なって仇敵米職級に孫樊の形相も物觀く叩き毎に突狐の度を加へ、わが島町精鋭は必死と 曹烈から 陳宮へ ・南海決戦の 戦局はいまや日

置すのだーと歌呼に殺到してゐるのだ。北辺 アツツ玉碎の仇は偸撞がこくで鳴らずのだ 展げてあるは航空決戦だ、段階散機は野

を製からしめてある。関に火魔を励らしてる。関に火魔を励らしてる。

の固い決意が秘められてゐるのだ 門には留は「空行かば雲梁む屍」 同じだ、手探りで歩け 重報道班員破】廣州の わが行動を知り上空で

陳宗であらう、島軍の値影機が世 店邸である、軍機酸の内膜深く飛 び込んで既一自爆すれば遺骨の帰 の決戦場 になって

死の駆励機を相手にしての

ハリケーン、パーファロー

自爆、未緊張の出ることも已むる

〇目前にこの価疑惑の苦動によう さともに勇士たちの原字深く刻みだ、ボート・メーウイン大機関の 得ない、米延嗣戦の烈々たる闘志だ、ボート・メーウイン大機関の 明確な狀況、が悉く修器しるる

待機中も数々その動物を知るため 未だ敵基地 ぷぶんて 機鬪戰 南海の荒鷲日記

る。この対抗なわび荒野機成の複雑を00歳

「現の前にないさくかひるみ気味で数接によ

る部配の少配々と少弱々を配から【実質=敵 來た、死してなほ止まぬ七生波賊の闘志を殺

に三百五十八般の多数にのほり、敵の鉄

地から陸軍報道城員は次の近く

然々の闘魂南海を魅す ダーウインから野近の るこく〇〇芸地ボート 治療の るが、以下OO 茲地におけるわが の 新銳脫阿機縣山下美明隊長(山口 の日配の一節から燃えるやう

苦手は敵の探知器 彈幕潜る巧妙な偵察

難してこれを軽減せよと類りに概に求だまだいくらもある。前

〇月〇日 コンソリで ・イングでも一味の下に倒 ・イングでも一味の下に倒 ・ボダたる自信を持ちなが ・ 第布 !!

不良、前科少年ら、惡

をめげたのが一昨年、 に仙甘風風が呱々の野

の見ではあつたが、い

までは國路を話せるやうになっ

軍教用

ナを輸切りにして食べてゐる

が出來を、この時の偵察行に加け

2 つた久保田宗男中娘(随高縣)の 話によると約三十門の高財御が一口 際に火を吐いたが、右に左に飛り 世に沈清桑贈そのものである。今 棉名がついた、質に経固なき信 の暗問から偵察したもので、機際 関か、阿々

敵前

で室の猛訓練

いのが辛い、さらに進攻もつて

て叩き没せゃと液原心湖々だけわけないといふ、『米浜歌じ

し自給自足、この風は相當な分 関見のうちに衛兵巡察者が

野菜などは勤労発仕で腐り

二は話せないとしても聴くだけ

惡氣象も何もの自信滿々―

る、何しろP40、P38、ホー 凛洲の奥地 群小原窓 〇月〇日 敬敬來らば直ら と出職すべく勤務看交替で廿四 に出職すべく勤務看交替で廿四 に出職すべる動務看交替で廿四 面にて関焼にして食み

機関に素敵に別数を開して乱吹き力を駆けての攻戦は開始

り方は敵々様といふが既施されて全國あげての限切

七名もあるといふので、一徴兵制

荒戦強は戦闘の寸限を 心に挺身するわが陸の

む、〇〇上空で突如む、〇〇上空で突如

終り最常なし』の報告に部隊長の に集合した搭採員一同から「攻当

名に増は、大豆、煙まで自作し

懇切な講評 がなられた

敵戰鬪機群

官信を生かし、この気合をつざけ

ンタ領導門で開かれた常上敞井町のか二日、京県竹藤町都オラ

他の治療薬を教

〇月〇日 廿時十五分

一級に赫々の武励を耐てつゝめ

道はれつ人の爆撃だ、必中を押し間を激船期に治びせる、戦闘機に

似場際は意路下爆躍をもつて必中

込まれたのは際長用合取の決定で

に行った、この日午前八時半・ いたつた、この日午前八時半・ が潜水臓の通報によれば微敏送船

〇月〇日

る、一隻また一 する、爆弾は正確に廃職に命中す 南海の藻屑

訓練を終って養婦した卵頭指指



大きないが、 はいました。 してあるがのソバカスをフケの様な古いのたに難化させてスツキリと制が対し、 したのをんなとにないでする。 なんはいのでは、 ないのでは、 ない

関長がのべた日本の窓の偉大さである

私のソバカス取が話!



















































出版の「工具質を「〇次

菊一文字刀剣部

() 多花店業・○上門三・○五門

の青肚年は必ず申告を要すること 前に擔任書記の打合回を催するに を修了した、因に本年十月一日現

告をなすとになってゐるのでこれ 日現在を以て青壯年國民登録の申



かれこそ强き産業戦士

選ばれて初の入所をなす寄少年定刻式場には府内主要工場から

四、工員選をみつちい職意敷製しよう四、工員選をみつちい職意敷製しよう

開設を計量してゐたが、敵々跳音 と強てから公立機械工員訓育所の を開始することくなり一日夜七時

府尹、寺坂磐長、森麻工宮護所會

の代表音を送るペく十一日午後二

京城府編生課では治核の豫防護域

府民の「健康相談所」を創設

行ふ管であるが左項に基き機構の



らない重要を反称の一つである語(もりがめる、お売部語り取消し返しは微騰心であるが極く最近の総許上院筋上行時とりとも止失うてな「いぶ加入者の應度は御職依然たる」しにする等電節利用に對する機械と短いま要え反響の一つだく 國一語の自総理動が解述れ続めて入し | は市内加入着間で勝着を呼びつ脳

言葉をはつきり丁寧に 中央電話局が皆様に御願ひ

假観一組を難被することでなって一つが管日選拔組は夫婦組一組と一

大會に選手を派習するため來る四 日午前十時から窓際内で部内 **叺織競技大會** 江華で豫選

「魔政府」楊州郡では來る十月一 國民登録打合せ

名を招集して防空職習回を開催

凱授密に管内特設防破厥院部百四防壓係では三日午前八時から同盟

単に既全を期するため四大門監 朝有草の際に備へて防空動態の | ある

指導者鍊成會

展開されるものと強調されてゐる

の入所式

して活用する【窓域=第一回晒れ

その都度本際に要求せねばならぬ

務も府内七属役所にそれぞれ分割

といふ不便があり、また中国は都

が参商、指頭火花を取らず黙耶が 与年も屋童、生徒、一般たち多勝

国調育所は夜間歌會で巉蜒年限は、中を以て八時半頃閉式した。 唱を以て八時半頃閉式した

期す防空の鐵壁

を握り合つて米英野戦に連進しよ

かりが入所、二泊三日間に亘つて

是感见

道場で指導管練成會を開くことに

ではける三日朝八時半から月尾阜

一部よく回見を出せる場所に不は世かる情報に不は世の神とのいなべる。 年間 の神とのいなべる 中で都不順天大祭や

た、場内に異べを放ったの

けふ西大門署で講習會

川珠算大曹を開催の豫定であるが

(一川) 一川西工會館所並に商業

8

窃取販賣一味送局

150

松次郎(稀) +

野

珠算競技大會



奮ひ起て

よ戦ふ青少年

兵制の蛮施を見、半島統理上副

が府民館で行はれるがまつ開城府 完全なる發足を期するは焦眉の

時満日の民風後臨盛(3)豫殿り一ケ團億一名づつ、(2)豫別日及場所九月十一日午後二時満日の民風後臨盛(3)豫殿 時満日剛民學校職堂(3)豫選登表(九一、林敬維、(4)豫選登表(九一、林敬維、(4)豫選登表(九一、林敬維、(4)豫選登表(九 結核の撲滅へ

徴兵制記念講演大會の豫選

かに図収せられた。

何はすぐ腰をあげて、孫本老



日本ニュリス 一番夢のふるさと 蕎麥のふるさと

皮膚淡原 性病科

場劇際日京

支部長線企

を で で で で い の 合 唱 で の 合 唱 で の 合 唱

の あらう。 それよりは早く上陸して 見電がついてゐなかつたからでも 足を伸ばしたむものだと習んでる動揺しなむしつかな療味の上に手 求貸事務所

家具物更生

斐計理事

専門ノルマラン 越荷機械類グ

管野組修一京城府開山區等野組修一 建築修理

霜理

| Tell | Tell

座治明

三压逐

とでひとい目にあふよ。注意しと

てゐると、事務長の曾根が確を出 店舗付自宅譲渡

自動車運轉手 瞬手

醫師數名を求む 朝鮮銀行庶務課 者は自田園語書朝袋のとと、



豊田計理事務 界料コムラ 人の病院

屋所龍 務日



○ 常語中』は随うに受酷器を掛金 に 『お語中です』と断つた場合は必ず、1旦受酷器を掛けて頂きながず、1旦受酷器を掛けて頂

▲呼ばれたときの返事は番號か氏 名で、警信で電話のベルが鳴り

山るとど 「大名」 大は『氏名』 大阪客の場合は速

健康で御奉公

一同の顔色が急に置つた。

である寡質等である、通信脱級の 京政で料金を支持ひ作ら通話不能

な多にな中に交換で間の銀扇に間 と不穏不要 な一般 通路を挑削し

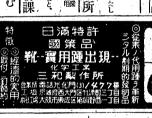
するぞう協力すべきであるが二日

他の取扱に大郷迷惑

料理番がけた特別は耐が出てたま それは疑問だが

からお淡めのことばをいただいて

「なるほど、飾る出てこないね。 までたつても国外人出てこなかつ 観点な岩が、それをいひ出した。 だが、中へはいつた筈は、いつ



君は操縦の若りになる。 日時、祭日は午前十時よれ旦二日上方八日まで













夜



















荷造用 麻糸 て愛、國商行

京城県友留では新學 規第一回例會を四・ 朝

戦國民防空

館

Ĕ

し

明るい銃後

十三日は十二回司法保護記念日

逸品揃ふ書展 美術の秋飾

本となってゐるが、 戦は『空の神氏』

を 招聘 お 曙

資荷造と運

大同生命 郷支店

ム罐譲受度し

入場科税共五十時均一 関於島 特別出演 乗り 大島 特別出演 を自奏、 吳韶樹 金白奏、 吳韶樹

十城稅務事務日 祭日は午前十一時半 劇 京

録配丁目・青年会論者 7 電話光®二四三一番 1 プロートでは

-第

場劇陸大

部に現場所が手限で工作的 会で達し、「特別所は「一般で 地位」「特別所は「一般で はあい作品 企企会を同場る企会である

女毎月間沿網

大阪・京城・大陸化理研究

〇〇基地に歴戦の購買を休む(経験経験がありの一般)

今ぞ生産へ總跡起

工木戦に敵威力

『は八月○日から○日間 ニュージョージャ島。 バン カ島、コロン バンガラ島などの必から後へと長力。河域を納給して総物機能りない激烈な配局回を展開しつゝあるれ。現地第一級○作取指導に置ってゐる必から後 へと長力・河域を納着している 線上面に飛んで親しく第一線將士の米英駿滅戦を視察して00益に贈したが、日報

日本は最强の敵

な攻勢は京を決して総献出來のことを感ぜられ、

ず絶對優勢な航空力と追儺砲を聯位して大兵力をこの取線に集中し

密林近接戦に利

に不動の戦略的位置を確保してゐるGrave

今こそ決戦奉公の

たんぽぽ娘

体

大

なないめどのからない。 でからいまくいい。 原则東大唱泉[町三ツ·市市。) 8.34 (御中越次第公定價格表这呈) P (教明: 新典版4.9) [100] 新四篇

健 朝 民 鮮小野田七 鮮 强 兵 ^> 1 # I 外 勝 湖 単 色 * 葉 町組

させないだけの戦災を脱へてく

疲脚榮腺結胃 勞氣養病核腸 倦浮不體衰疾 怠膧良質弱患



鐵と血の闘争 最後の勝利へ我が鐵量

第一日 マランステ 米 | 10 エリース |

そして新たなジャングルを売むされねばならなかつたの「町1日製姜したでは黄に腐物を飾と向いる。 だが遺憾ながら、いてが最いがすることが出來るのである。 だが遺憾ながら、いてが気動が向すた機を換したすることが出來るのである。 だが遺憾ながら、いてが気動が向すた機を換したすることが出來るのである。こと 英機四十八機要失

世にアルベルト・ペリアーニ桝面 コ氏を住命した

鰀物増産に全力

歸任の山澤東拓理事談

江界水電解散網番出席のため東

個をもつて外交政策を報聴する機會は一日取削されたが三日齢 脱一夏季休暇明けのフィンラン

機七機を撃墜した、わが方には損害なし

ン大編隊をもっつて、コロンバンガラ脳のわが方向地に来郷して来つたが、わが無端な地上部壁の野窯網火は一部に火を吹き散されるプロモン戦闘方面に駆はまたも襲拗に楽窟を加く来った。すなはち共る出一目守門にはころ際は戦爆連合八十機以上

常見のでいる。大田の東西のでは、東京電話)来郷中の東西のでは、

| 京中勝ばか|| 行四名は|| 百午

航空作成の深後と数められた要離。数の版パンともに近くられるべきたる。新力が微んである。新規な「発ける地上動物なが特別こそは不たる。新力が微んである。新規な「発ける地上動物なが特別こそは不

勢苦もその一つである、

【〇〇共曲相谷頃用線道科質間開】」には機械の放照による事故なレと一部でするのである

勝利の陰に默々の努力

たる 密力が満んで ある、 節快な

松陽顕三大佐が任命された附を以て内地に帰還、後任として 道部長銀田正一大佐は八月卅一日 報道部長更迭 支那方面艦隊

鼻の悪い人は

如何なる。既く道民一般の赤賊による番財に しようと建設費八十萬回程度を見

だー職丸の飛行機も監脳も

勇猛果敢な皇軍勇士らが一

試験を延期

られるが、それを辿用する

前級將兵への限びの弾丸…

層音製造に酷暑を物ともせ 本の煙草も鎖け合って喫む

町十五日まで行はれることになっ

たがこの期間は各風梭の試験期に

のるので陸軍航空本部では特別の

に大量だ、前級を思る取断 うづ高く積み上げられて行

となって地産

いては殖銀世労器で関査の結果左

昨一日加強の第九回取時報國一等 ならびに第六回、第九回取時防管 九月の當り籤

鮮内から十八本

将兵へ憇ひの弾丸

を切つた、この中輸送機関への協 開立、輸送陣への協力による地 ゼラペル重要物質の輸送に協力 二つの臣道武戦へ暴らに出破 一九月の愛國班質

來、大日本忠霊顕影會朝鮮本部を 英魂に應ふ赤心 農場朝鮮貴族會が寄附

野運散数として客財した、一能年(7元の他兄ゆる職職、彫生々徳宗)が蔣州縣銀文店から出たのを銀戦朝総斡族會では、日金子間を忠慰。中ぐことし官公吏氏が総會戦、銀(の郊く第九回献旨集團)等一高国 **運道内理々補々の整國班員に至る** 人間れなく曜出し、三百萬

市府尹を訪れ赤威こもれる客附の 一等一手圓が三本、第九回転時時一日間が二本、同じく七圓五十錢券 に第六回版時近落十五回第一等 八本といふ大留りであつた内闘左 ★第九回収時報國八、三三七、割



全同基準内で開催、受請者は強闘 までの九日間(廿四、廿六兩日を から城大で

官の第二採用試験は九月六日から【東京電話】陸軍特別採除見密士 陸軍操縱士官 響に設置料十五四を添へて同醫學 部無務保知に申込むこと、なほ職

永年勤績の軍屬表彰 「東京館函」の様本部では多年動 教授) 防空路路 (宋定)

前八時から動機等ならびに 別れの基手を我兄はしら

見習士官係処屈出るやう希望して

距離辻融百氏以下五十一名、女子 打機に飽かず遊べ

氏以下廿七名、十年以上の踟蹰者

OXII 一	ME は を は を を を の の に に に に に に に に に に に に に	0	きい		際に避は夢	で対りや波	じたるみ文	は合格せり	2 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
B- 600	西爾爾爾	二京京京記 電響東福 記字[22]	T新鐵條 電影		機能級の	 	3 3 2 2 3 3	野味り	見朱中
明明	が 理解 研究 研究 研究 研究 研究 研究 研究 研究 研究 研究	和祖國 開始	司弘即高台	三回的 <	超异克强	三同無外線 砂新素 砂香素 0000000000000000000000000000000000	一类量员	光電 公司	ti i i i
帝向倉 人新羅 弘売系	人群费	現め内へ		北河東京城區第二十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五	烟瓷器:	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	日間 発入 (本)	新拓	1 (2008) 14
	他新闻子 は選挙 さること	5日日期 計 動 企 計 を 計 を 計 を 計 を 計 を 計 を 計 を よ う る う え う う う う う う う う う う う う う う う う	ロッ ログ野調像		10年间日 17化新室 16公置交	文帝昭北 帝昭北 帝昭北 帝昭北 帝昭 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝 帝	충균용평균		和 新 場 日
解釋用 解實質 表容法	蒸甜素。	日本を表示	関の の の の の の の の の の の の の の	間水 間水 間水 で 表 い る き る り る り る り る り る り る り る り る り る り	日二三 で で で で で で で で で で で で で う う う う う う	日川同川 川南新駅 で変更を で変更を	- W	同学同学新老芸	

贈今スデニ八歳、明照登スペ

□ 元宗 → 明を合理出 ・ 日方明 中九 4門印 ・ で月方明 ・

4

淋巴腺結核心 弱い方には一様短号世界

れてツと戦略を挙げたのは内壁共、月後には親領三百五十四國十五歳去る八月一日半島に後兵副管施さ、の手によって熱心に集められーケ

の示誠をもつて一日本社を訪れた

燥極專門

共學の喜び頒つ

徴兵制に舞鶴高女の感激

とみえ、建興十二年、吳にある

描に宛てて窓ってゐる彼の語

■殊と記録し、職私中郎将に伝せ B その後、際は十七のとき、魚の√ シ、タマ其ノ早成、恐ラダ、田谷 の年、孔明は低地に歿したの は八歳の見を見るにさへ、図 霊の文房のうちから『子を誠 見地からこれを観てゐた。

とは多い とは多い がら脳す。 がのだの がつたの かつたの 選手限的光十 計数で調査が 東の難京

(教養チーコレ)

ドーコレイデッニ



さればいて飲いやうである。 これは好い飲いやうである。 となったが、れ明 と猫の間のやうに鬼交がなかうた ので、三國恐中にも殴り揺瞰して ので、三國恐中にも殴り揺瞰して ので、三國恐中にも殴り揺瞰して ので、三國恐中にも殴り揺瞰して ので、三國恐中にも殴り揺瞰して ので、三國恐中にも殴り揺瞰して のたいだけに止るのだ。唯、後に 対を取つた司場曹に扱いて飲れ去

たが、彼が四十五歳のと

明の家庭はまたしばらく寂寞

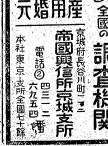








信〉全國。調查機関

















本村名人講評 先手六八王から四六歩までは陣容の整備と

後三國志

篇外餘錄



珍しい展示戦が影響時へ突入、一徹氏側に威滅、意々かたき決意を後長線に因む 移動膜/といふ 奏、鬼音米克の鼎標ぶり、半島が 然やす赤跋쨉などを巧に遊戏に納

我こそ皇軍の

中堅

沸く

徴兵の感激 本府に罷出た移動展

陸軍豫科士官學校檢查始る 麓めさせる挺身陣頭の指揮振り 五年以上凱繼者打字員内田トキさ 中吉衞全も氏等参謀本部の生学引から勤務して四十年以上に及ぶ田 一般田坦少将が沿路が長に代つ **瀬草、証状を授與した、**

府信報課の主船で目下全銭の各地路と輸出に現して製作、これを本

展】 は正に溯訳そのもの【写画=移動

方をところ解はずに機能して、展

増産の督勵

のと思ふ、その面魂その無措と、物治の意の不斷の無成によるも

へてゐるが、こんとは本府顧内に

伊藤城笠局長は目下展明してゐる ち全暦一四に火蓋を切つた重要賦木材、堆肥、乾草増産及び一日か

の意象を見せ試験官を痛く感激さ せてゐる。二日の受験者は逝々南

地方から集った00名で長途の

の見せず機利眉字に堅き決意

四日まで毎日正午から一時間、午

もの一開展第三日の二日、展示場 ては女子順員までがのりこんで、

ならしむるため鋳後の蔵

獣に於ける逆命彦々重大性を加へ

米英曜誠の必勝駁を完整。

徹底が聞られてあるが足蛇基地半

産業戦士を慰安

府民館で厚生音樂會開く

聖戦、親切で勝拔け

職場に降み、若人淫を激励した

づれも中井將軍の淵

日兩七六る來

世界に沿たるわが温重の象い設職「鹽の場底皆跡をも行ふ

半島二千五百萬の座右銘決る

主催、本社後接の下に厚生音樂會ことを布望する』と温い波眈をう 所一で御殿のお役に立つ人物にならん 道見図」 は一日も出級に中立るの 『中央協會主催の『漢州國派選

れてゐるが堅生贄樂はその効果の

の向上のため今般朝鮮概工密藤 る折柄生産能率の輸進と動勢生活

業成績にもまた歴安と歌

を開催すること人なつた、出演者け首相の激励に感激した錯見たち 感激の半島を紹介 の比喩につく

致施を契機として徴兵制を中心と

し弊生産樂普及の鳥寅の寧生音樂 東京! を提供するますす。

が國樂図の雄、奥田良三氏を初め

は東都単生音樂の指導者であり

京城府民館大鵬堂で華々しく霊明 を提供するが適期は深る六、七日

タチユリヤ音樂院出身、最近は けする、奥田良三氏は伊太利サン

ら工場、會社方面の歌唱指導の任

ある。東京『新太陽社』般

に借つてゐる

醫學講習會廿日

宣撫演奏へ【釜雪覧記】編新

の死した。 僧いかな、二十五で一

鎖

三十分しっぷ葉粉末百本一円 神經痛肩こり腰痛 デルモライツ 炭礦株買氣

第二回(河江河河) 三元区

特进高级店隊拔戰

か協職

株式投資

競・輪巾をいたゞき手に白初

といふ彼の風采の指言

『三國志滅義』のうちの本文に 諸葛荣(公

やうである。孔明が生前すで

生産戦は

銃後の勉めた

である。

決して、國家の大器ではな

山本源作商店

易城明治和 二三

といふ彼の貿易生活の一面を、

って発士としてゐた。所は臭の重 彼には初め子がなかつた。

に 母系もあつたといふ説もあるが、 つたといはれるが、この人の傾は かからない。又、孔明には、他の

路②丘一九一番